県立高等学校教育改革
第３次実施計画【後期】
（案）について

～これまでの教育改革への取組と
実施計画案の概要について～

平成２４年８月３日（金）１８：３０～　むつ来さまい館

青森県教育委員会

1

Ⅰ　第3次実施計画策定の背景

１　第１次・第２次実施計画の取組
２　高等学校グランドデザイン会議での検討
３　第３次実施計画の策定

Ⅱ　第3次実施計画の基本的な考え方と【前期】の実施状況

１　教育内容・方法、連携
２　学校規模・配置
３　多様な進路志望に対応する学科等

Ⅲ　具体的な実施計画【後期】（案）

１　【後期】における教育内容・方法、連携
２　【後期】における地区毎の学校配置
３　【後期】における県全体の学校配置・学科等
４　【後期】の見直し等
５　成案に向けたスケジュール

2

Ⅰ　第3次実施計画策定の背景

１　第１次・第２次実施計画の取組

（１）高等学校教育改革第１次・第２次実施計画

「２１世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」
青森県高等学校教育改革推進検討会議（平成９～１０年度）

↓

県立高等学校教育改革第１次実施計画（平成１２年度～平成１６年度）

↓

県立高等学校教育改革第２次実施計画（平成１７年度～平成２０年度）

（２）社会の変化や生徒の多様化に対応した学校・学科の整備等

①　総合学科の拡充

（七戸高校、尾上総合高校、大湊高校、青森中央高校、木造高校、深浦校舎）

②　普通科の全日制単位制の導入

（青森東高校、弘前南高校、八戸北高校）

③　特色ある学科・コースの設置

- スポーツ科学科（青森北高校・弘前実業高校・八戸西高校）
- 表現科（八戸東高校）
- スポーツ科学コース（野辺地高校）、生活・情報コース（田子高校）

④　中高一貫教育の導入

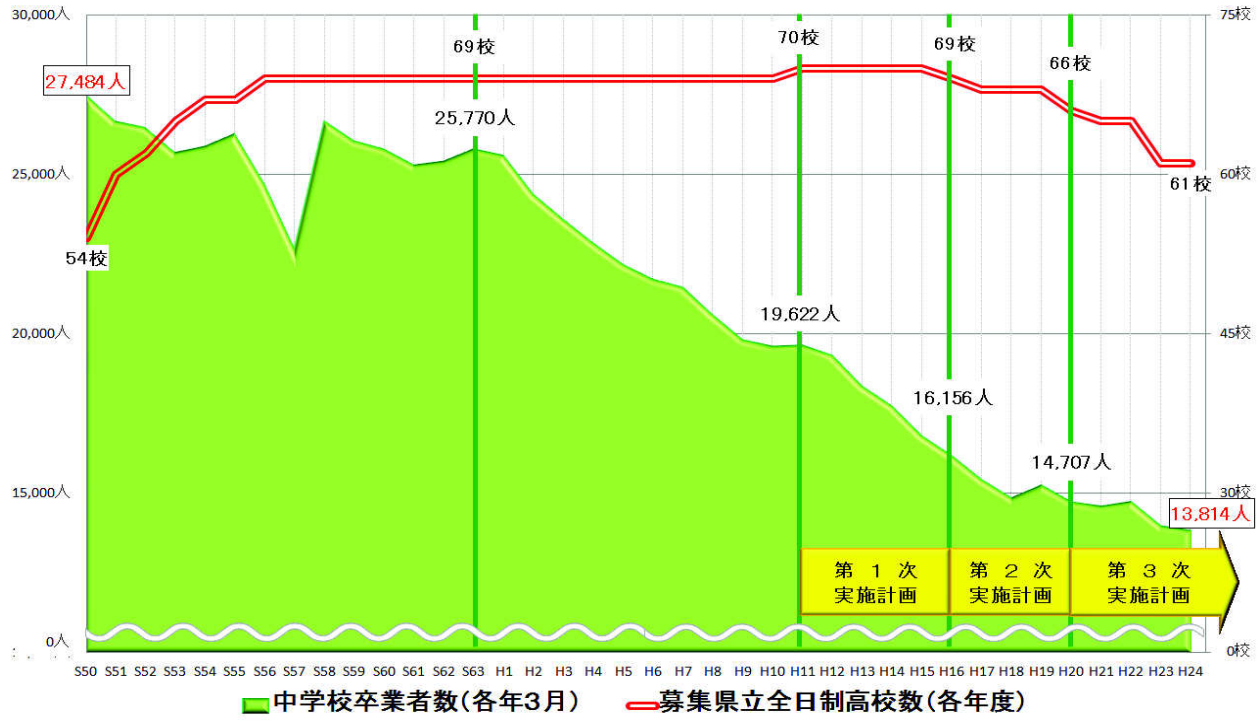
- 連携型（大湊中学校　⇔　大湊高校、田子中学校　⇔　田子高校）
- 併設型（三本木高校附属中学校　⇔　三本木高校）

⑤　定時制教育の整備

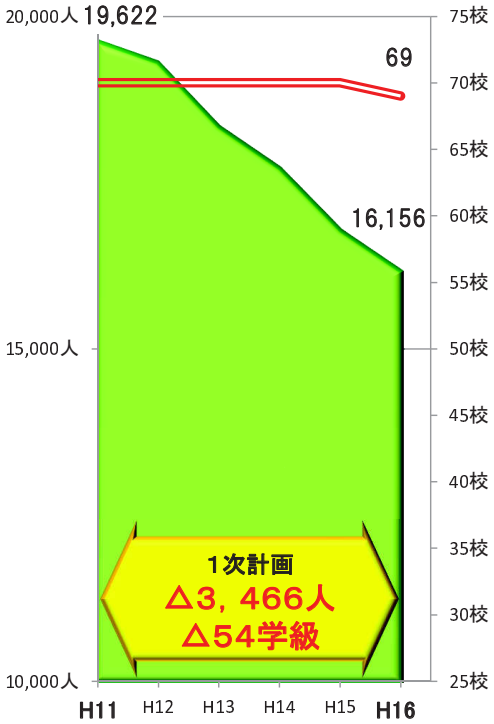
- ３部制の導入（北斗高校、八戸中央高校）
- 工業高校の学科統合（青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校）

（３）中学校卒業者数の減少への対応

①　中学校卒業者数の推移と学校数



②　第１次実施計画



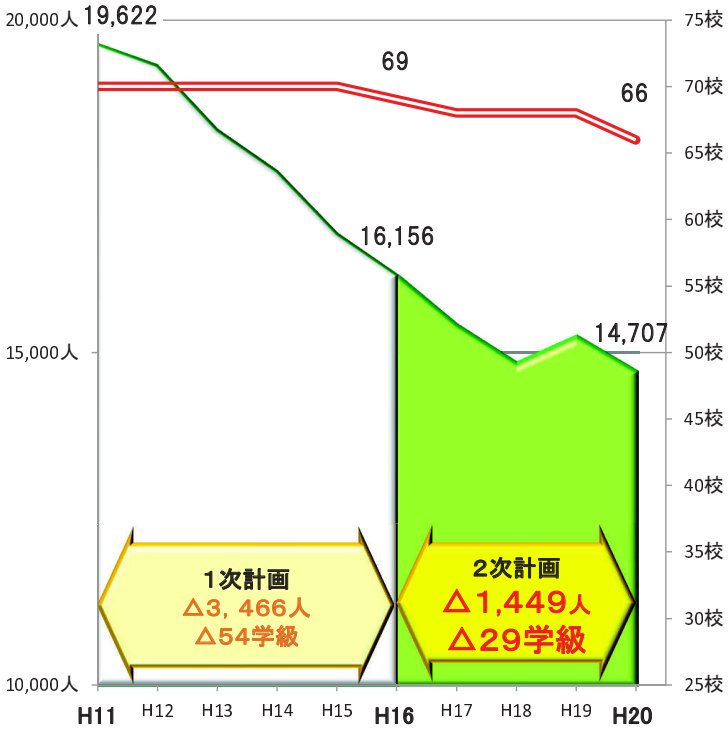
中学校卒業者数（各年３月）
募集県立全日制高校数（各年度）

生徒数減少への対応
〇既存の学校は可能な限り存続させる

〇市部の学校を中心に学級減
〇小規模校の学級定員の引き下げ（1学級40人→35人）

〇市部の学校
→・志願倍率が高いまま推移
〇町村部の学校
→・ほぼ定員を満たしている小規模校
（市部の生徒が入学してくることにより地元生徒の占める割合が低下）
・大幅な定員割れが生じている小規模校

③　第２次実施計画

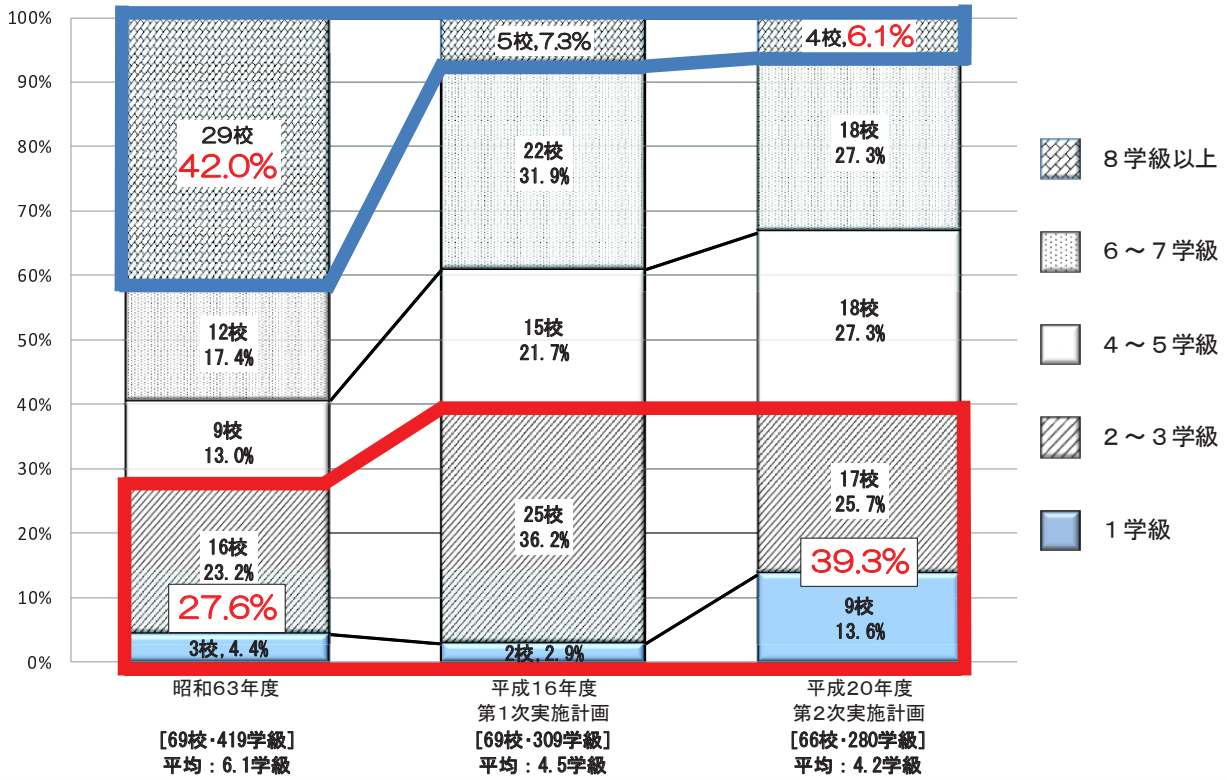


中学校卒業者数（各年３月）
募集県立全日制高校数（各年度）

生徒数減少への対応
〇１次計画と同様に学級減のみで対応した場合、生徒や保護者の進路希望とますますかけ離れる

〇分校の募集停止
〇市部の１学年３学級以下の学校の募集停止
〇町村部の１学年３学級以下の学校
・地元生徒の志願・入学状況を踏まえ学級減
・１学級募集とする学校は校舎制を導入
※校舎制…法的には分校。本校との連携・協力により、教育内容の充実に努める制度。

④　学校規模の推移



２　高等学校グランドデザイン会議での検討

（１）平成２１年度以降の県立高等学校の在り方

- 高等学校を取り巻く環境の大きな変化
  - 中学校卒業者数のさらなる減少
  - 産業構造や就業構造の変化
  - 生徒の進路意識の多様化

- 今後の県立高等学校の在り方
  - 本県高等学校教育の水準の維持・向上
  - 活力ある教育活動の展開
  - 高校生が夢を育むことができる環境

（２）高等学校グランドデザイン会議への諮問（平成１８年５月）

高等学校グランドデザイン会議（平成18～19年度）
（委員：県内の有識者・産業界関係者・PTA関係者・教育関係者等19人）
［6回］

第1専門委員会（委員:９人）
［6回］
・望ましい学校規模
・統廃合の必要性

第２専門委員会（委員:１７人）
［5回］
・学科･コース等の在り方
・高等学校と中学校等との連携の在り方

地区部会（委員:10人×3部会）
［各部会４回］
・東青･下北地区部会
・西北･中南地区部会
・上北･三八地区部会

（３）答申の概要（平成１９年１０月）

① 県立高等学校の適正な学校規模・配置
② 社会の変化と生徒の多様な進路志望に対応する学科・コース等
③ 県立高等学校と中学校や大学等との連携

11

３　第３次実施計画の策定

（１）県立高等学校教育改革第３次実施計画（平成20年８月策定）

- 平成２１年度以降の１０年間を見通した高校教育改革の基本的な考え方
- 平成２５年度までの具体的な実施計画【前期】

（２）実施計画策定の考え方（計画案P2）

高等学校の役割

- 自立した社会人として生きるための様々な資質を身に付ける場
- 将来の生き方を考え、進路を決定する場

↓

- 学力向上に向けた教育内容の充実
- 生徒が互いに「**切磋琢磨**」できる環境での多様な教育活動の展開
  - 社会性をはぐくみ、自ら考え、行動する力を身に付けさせる
  - 主体的な進路選択を行うための勤労観・職業観を身に付けさせる

12

（３）実施計画策定の視点（計画案P2）

① 県立高等学校における教育内容・方法

② 県立高等学校の適正な学校規模・配置

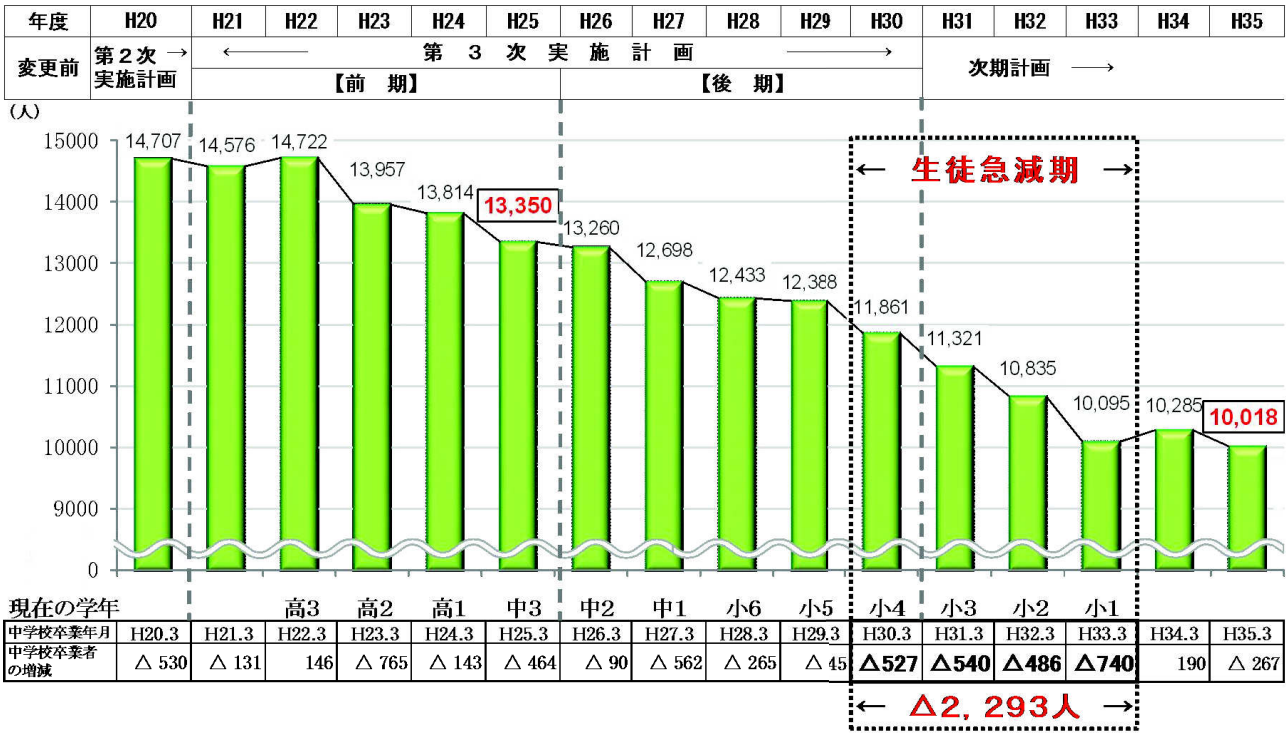
③ 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等

④ 県立高等学校と中学校や大学等との連携

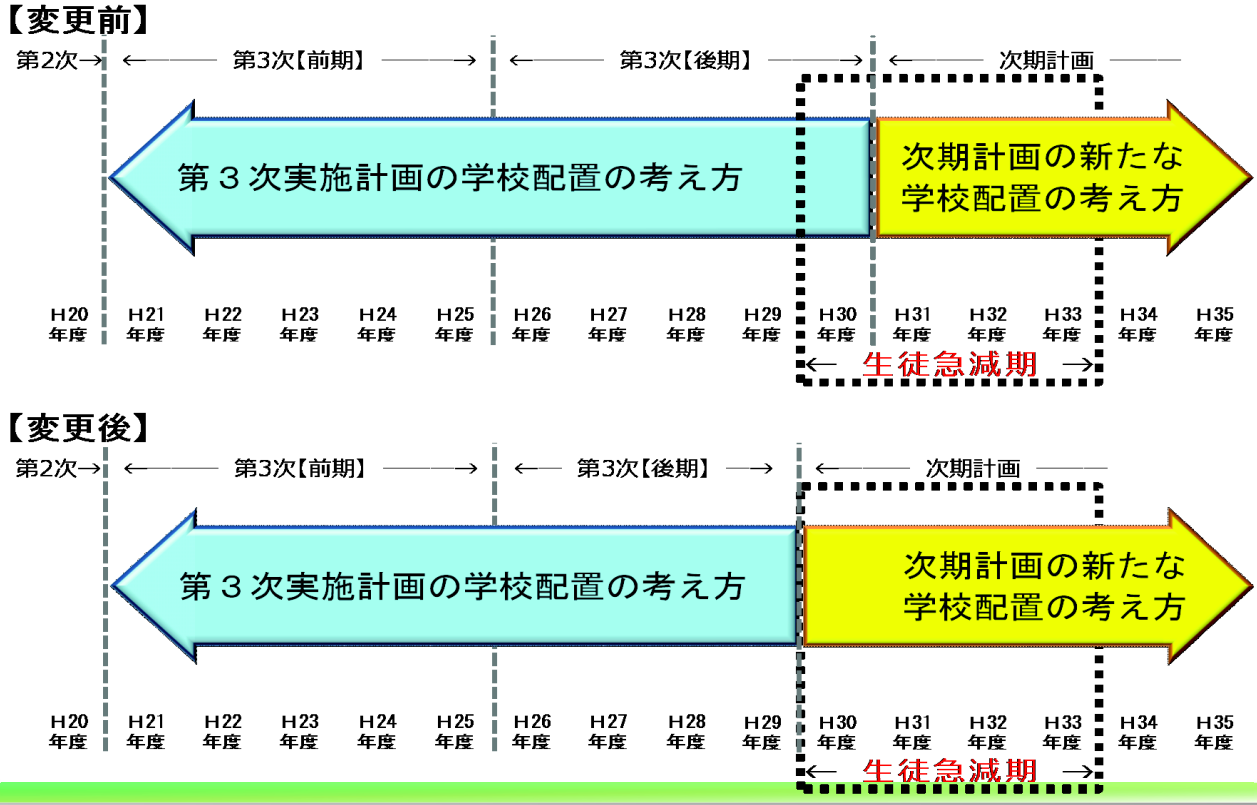
（４）計画策定時の実施期間（計画案P3）

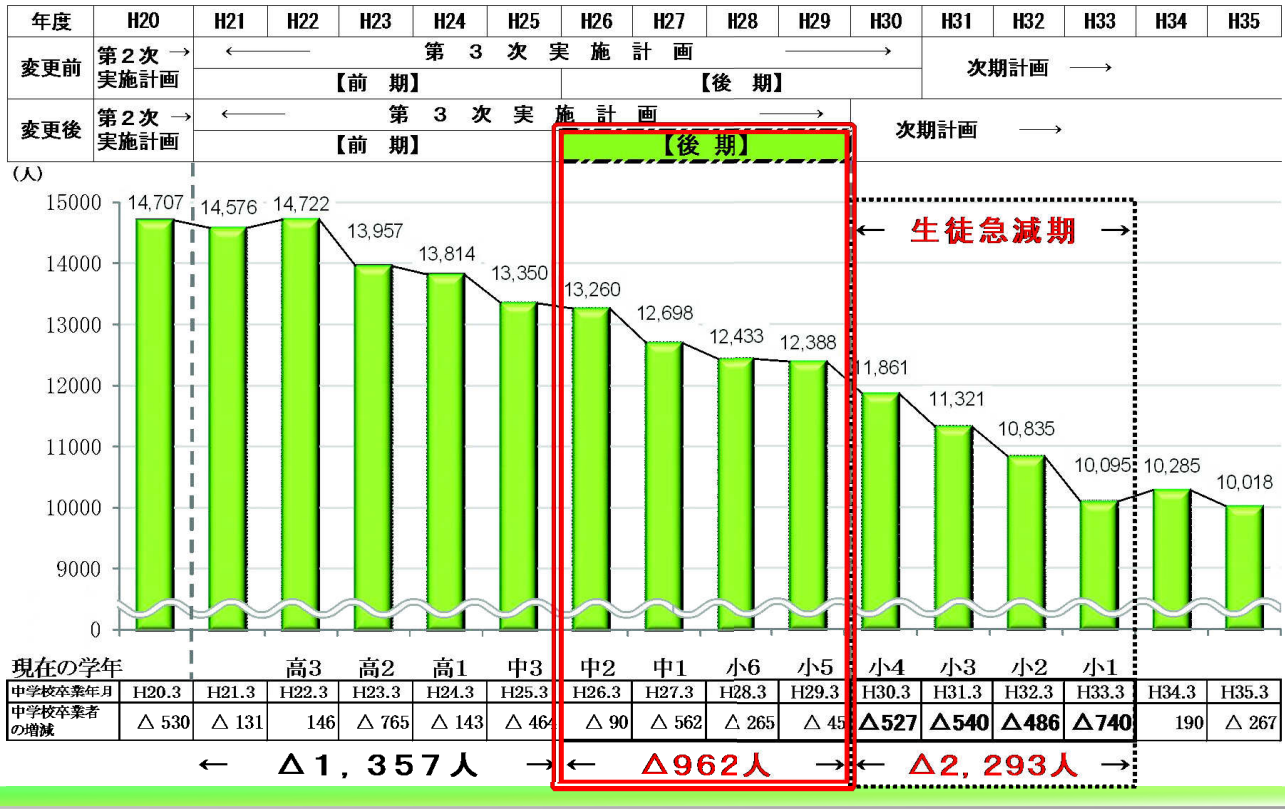
H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	…
第１次実施計画					第２次実施計画				第３次実施計画										次期計画		
									【前期】					【後期】							

（５）中学校卒業予定者数の推移（計画案P3）



（６）第３次実施計画【後期】の期間の変更（計画案P3）





Ⅱ　第3次実施計画の基本的な考え方と【前期】の実施状況

１　教育内容・方法、連携

（１）県立高等学校における教育内容・方法（計画案P4～P5）

基本的な考え方

各学校の実情に応じた学習指導や生徒指導によって、生きる力をはぐくむとともに、教育活動全体を通じた進路指導を展開する。

前期の実施状況

① 確かな学力を身に付ける教育の推進
- 習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導を実施
- 様々な交流活動により生徒の学習意欲が高まり、家庭学習時間が増加

② 逞しい心と体をはぐくむ教育の推進
- 学校・家庭・地域社会との連携による道徳教育の推進
- 地域・生徒などの実態に即した特色ある学校づくり

③ 社会の変化に対応する教育の推進
- 国際理解教育、環境教育、情報教育の推進

④ 教育活動全体を通じた進路指導の推進
- 各学校におけるキャリア教育の指導体制、全体計画等の整備を推進
- 各学校における進路指導プログラムの実施支援

（２）県立高等学校と中学校や大学等との連携（計画案P25～P26）

基本的な考え方

地域の様々な関係機関と連携した教育の推進、学校種間の連携による教育の充実とともに、大学や研究機関など地域の様々な教育資源を活用した教育活動を展開する。

前期の実施状況

① 中学校と高等学校の連携
- 中学校と高等学校の円滑な接続
- 連携型中高一貫教育（大湊地区　→　解消、田子地区　→　継続）
- 併設型中高一貫教育（三本木高校附属中学校）

② 高等学校と大学等との連携
- スーパーサイエンスハイスクール指定校における大学との連携
- 高大連携キャリアサポート推進事業　　など

③ その他の連携・協力の推進
- 学習習慣形成のための校種間連携教育推進事業
- 特別支援教育総合推進事業　　など

19

２　学校規模・配置

（１）第３次実施計画の基本的な考え方（計画案P8）

①　望ましい学校規模

高等学校の役割

- 自立した社会人として生きるための様々な資質を身に付ける場
- 将来の生き方を考え、進路を決定する場

↓

- 生徒の進路実現に必要な教科・科目の設定
- 集団の中の生徒同士による切磋琢磨
- 社会に出て行くための逞しい心の涵養
- 多様な学校行事や部活動の選択肢の確保

等が重要

↓

活力ある教育活動の維持には、一定規模以上の学校であることが望ましい

20

- 青森市・弘前市・八戸市（三市）の普通高校と、その他の市町村にある普通高校は、それぞれの視点で考える。
  - 三市の人口規模が他と比べて大きい
  - 近隣の市町村から三市の普通高校へ進学を希望する中学生が多い
- 普通高校以外は、これまでの志願・入学状況などに対応し、学校規模が多様となっている。

- **望ましい学校規模**
  - **三市の普通高校は、１学年当たり６学級以上**
  - **そのほかの全ての高等学校は、１学年当たり４学級以上**

21

（参考１）学校規模による生徒数等の状況

	全校生徒数（募集定員）	地理・歴史・公民の開設科目数	理科の開設科目数	部活動数（運動部+文化部）
１学級規模（40人学級）	１２０人	３．８科目	３．６科目	７．２部
２学級規模～３学級規模（35人学級）	２１０人～３１５人	５．１科目	６．０科目	１２．８部
４学級規模～５学級規模（40人学級）	４８０人～６００人	７．３科目	６．０科目	２２．１部
６学級規模～７学級規模（40人学級）	７２０人～８４０人	７．５科目	７．１科目	２７．０部

※普通高校の場合

22

（参考２）学校規模別の科目開設の状況（理科）

（平成２４年度入学者の教育課程における計画）

普通科	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	科学と人間生活
１学級規模			◎	△	◎				○
２～３学級規模	◎	◇	◎	○	◎	○			△
４～５学級規模	◎	○	◎	○	◎	○			○
６～７学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◇	

「◎」… 全校で開設、「○」… 3/4以上の学校で開設、「◇」… 1/2以上の学校で開設、「△」… 1/3以上の学校で開設

【物理・地学の開設状況】

	学校数	物理		地学	
		開設学校数	開設割合	開設学校数	開設割合
１学級規模	５校	０校	０％	０校	０％
２～３学級規模	１４校	８校	５７％	０校	０％
４～５学級規模	４校	３校	７５％	０校	０％
６～７学級規模	１５校	１５校	１００％	８校	５３％

※普通高校の場合

（参考３）学校規模別の部活動数

	運動部																		
	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	バドミントン	卓球	サッカー	ラグビー	剣道	柔道	弓道	空手道	水泳	フェンシング	平均設置部数
1学級規模	○	△	△	◇															3．6部
2～3学級規模	◎	○	○	○	◇				◇	◇	◇				◇	△			8．4部
4～5学級規模	◎	◎	◎	◎	◇	○		◇	○	◎	◎		○	○				◇	12．3部
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	◇	△	◇	○	○	◎	△	○	◇	○	◇	○		15．5部

	文化部																		
	書道	美術	写真	茶道	華道	音楽	吹奏楽	演劇	JRC	放送	文学	漫画・イラスト	家庭・家政系	自然科学等	囲碁・将棋	パソコン等	商業・簿記等		平均設置部数
1学級規模		△		◇			◇		△				△						3．6部
2～3学級規模		△		◇			◇									△	△		4．4部
4～5学級規模	◎	○	◇	◇		◇	○	◎	○	◇						◇	◇		9．8部
6～7学級規模	○	◎	◇	○	△	△	◇	○	◇	△	◇	△		◇	◇				11．5部

「◎」… 全校で設置、「○」… 3/4以上の学校で設置、「◇」… 1/2以上の学校で設置、「△」… 1/3以上の学校で設置

※普通高校の場合

②　学校配置の方向性

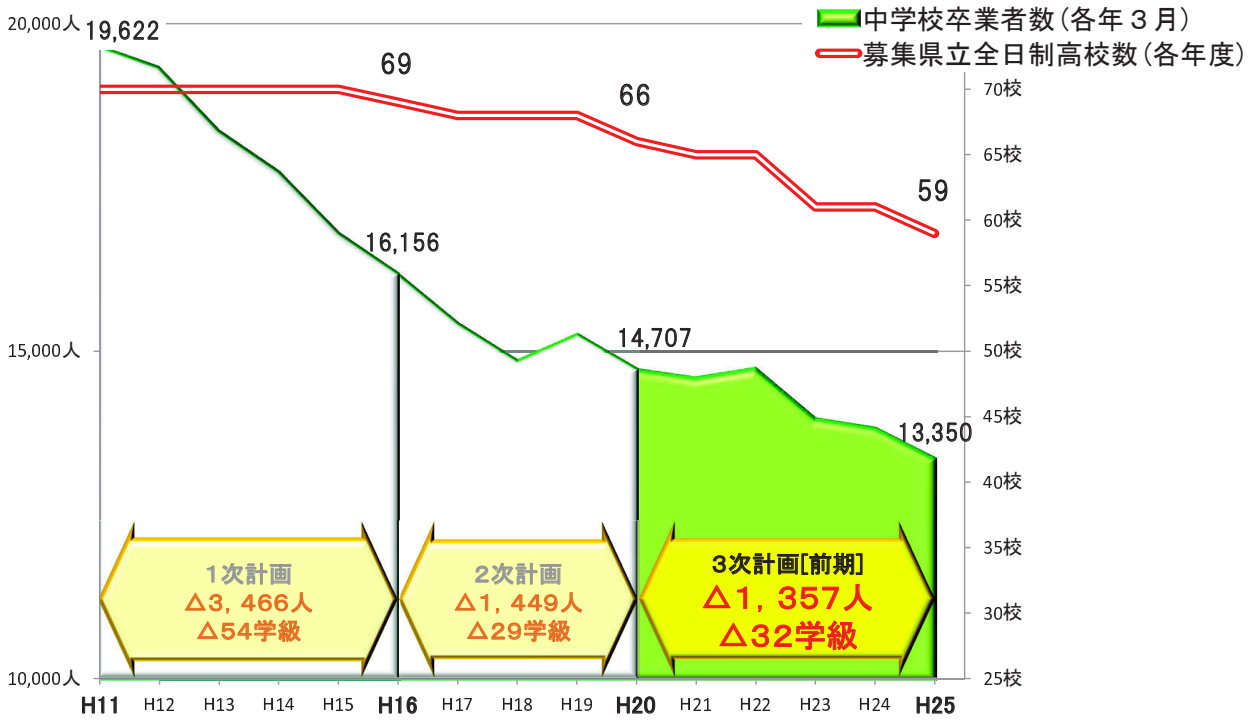
- **望ましい学校規模になるよう地区ごとに計画的に統合等を進める。**

【観点】
・中学校卒業予定者数の推移
・社会や生徒のニーズに対応した普通科等・職業学科・総合学科の割合

- 各地区の普通科等・職業学科・総合学科の割合は、地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより異なっていることに十分配慮する。
- 他の学校への通学が困難である場合などは、柔軟な学校配置等にも配慮する。
- 統合については、同じ分野の高校を優先して進める。

- **第２次実施計画による校舎制導入校は計画的に募集停止する。**
  - 生徒の入学状況等を勘案し、地域において高校教育を受ける機会の確保に配慮しながら、計画的に募集停止する。
  - 生徒の入学状況等により、実施年度を変更することもある。

（２）第３次実施計画【前期】における中学校卒業予定者数減少への対応



（３）定時制課程・通信制課程の状況（計画案P9・P18）

① 定時制課程

基本的な考え方

- ６地区に普通科の定時制課程を置く学校を各１校配置することを基本とする。
- ３部制の定時制独立校の中南地区への設置を推進する。

前期の実施状況

- 尾上総合高校を定時制３部制総合学科に転換

※定時制３部制…午前・午後・夜間の３つの時間帯で授業を行う定時制

② 通信制課程

基本的な考え方

- 生徒の多様なニーズに応えるため、望ましい指導体制の在り方について検討する。

前期の実施状況

- １本校２分室体制を見直し、尾上総合高校、八戸中央高校に通信制課程を設置

27

３　多様な進路志望に対応する学科等

基本的な考え方

基礎・基本を重視した学科のもと、多様で弾力的な教育を展開するとともに、生徒に望ましい職業観・勤労観と主体的な進路選択を行うことのできる能力や態度を身に付けさせるための教育を推進する。

前期の実施状況

- **農業科**

  環境保全や加工、流通等の資源活用等について広く学習する学科の設置
  - 五所川原農林高校　　森林科学科、環境土木科、食品科学科
  - 三本木農業高校　　環境土木科
  - 名久井農業高校　　環境システム科
- **工業科**

  太陽光などの新エネルギーの活用等について学習する学科の設置
  - 十和田工業高校　　機械・エネルギー科
  - むつ工業高校　　設備・エネルギー科
- **商業科**

  くくり募集を導入
  - 青森商業高校・黒石商業高校・三沢商業高校　　など

Ⅲ　具体的な実施計画【後期】(案)
（平成26年度～平成29年度）

１　【後期】における教育内容・方法、連携

（１）県立高等学校における教育内容・方法（計画案P6～P7）

- 後期計画においても、次の４つの方向に沿って教育施策を展開

① 確かな学力を身に付ける教育の推進

- 教員の工夫改善による個に応じた指導の一層の充実、知識・技能を活用する学習活動や課題を見いだし解決する学習活動の推進

② 逞しい心と体をはぐくむ教育の推進

- 個に応じた教育相談を充実させるなど教員の実践的指導力の向上
  ボランティア活動など各学校における体験活動の充実

③ 社会の変化に対応する教育の推進

- 国際理解教育、環境教育、情報教育の一層の充実

④ 教育活動全体を通じたキャリア教育の推進

- 各学校が、中学校や地域の企業・NPO等と連携し、特色あるキャリア教育を展開するよう、その取り組みを推進

（２）県立高等学校と中学校や大学等との連携（計画案P27～P28）

- 後期計画においても、次の３つの方向に沿って教育施策を展開

① 中学校と高等学校の連携

- 連携型中高一貫教育（田子地区での連携を引き続き検証）
- 併設型中高一貫教育（新たな設置について検討）

② 高等学校と大学等との連携

- 自らの生き方や在り方について考える機会となるよう高大連携の一層の充実

③ その他の連携・協力の推進

- 小・中学校との連携を深め、より効果的な指導方法を確立

31

２　【後期】における地区毎の学校配置

（１）第３次実施計画【後期】の方向性（計画案P10）

後期計画においても、第３次実施計画の基本的な考え方に基づき、地区における普通科等・職業学科・総合学科の割合などに配慮し、望ましい学校規模になるよう学校配置を進めるが、

- これまでの学校規模・配置の状況や地域における中学校卒業予定者数の推移などにより、望ましい学校規模にならない場合があること
- 他の県立高等学校に通学することが困難な地域があること

なども考慮し、柔軟な学校配置を行う。

32

（２）下北地区における平成２５年度の学校配置の状況

普通科等　職業学科　総合学科

平成20年度

学校名	学級数	定員	4クラス	6クラス	8クラス
田名部	6	240	40 40 40 40 40 40		
田名部・大畑校舎	1	40	40		
大湊	5	200	40 40 40 40 40		
大湊・川内校舎	1	40	40		
大間	2	70	35 35		
むつ工業	5	175	35 35 35 35 35		
地区計	20 学級	765人			

平成25年度

学級数	定員	4クラス	6クラス	8クラス	
5	200	40 40 40 40 40			△ 1
		募集停止			△ 1
5	200	40 40 40 40 40			
1	40	40			
2	70	35 35			
5	175	35 35 35 35 35			
18 学級	685人				

募集学級数増減　▲ 2 学級（対20年）

募集定員増減　▲ 80 人（対20年）

高等学校の1学級当たりの定員は、40人を標準としているが、1学年あたり2～3学級規模の小規模校や農業・水産・工業高校では35人の定員としている。

33

（３）平成２３年度の地区説明会における意見等

- 下北は公共交通機関での通学が困難な地域が多いので、教育機会の均等に配慮して欲しい。
- 普通科に進学したいという子供が多いと聞いているので、普通科を学級減しないように考えて欲しい。
- 生徒数の減少に対しては、大幅な学級定員の引き下げにより学級数を維持できるのではないか。

（４）学級定員の引き下げによる学級数の維持について

- **現状**
  - ２～３学級の小規模校又は農業、水産、工業高校において、１学級あたり、４０人の定員を３５人に引き下げている。
- **学級定員の引き下げを拡大した場合の課題**
  - 生徒数の減少により、学校行事や部活動などに制約が生じる。
  - 生徒の多様な進路志望に対応する教科・科目の開設が制限される。
  - 専門性を有する教員の配置が難しくなる。

（参考）

- 教員数積算の考え方

  高校の教員数　→　募集定員数に応じて定められる。

  （公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律による。）

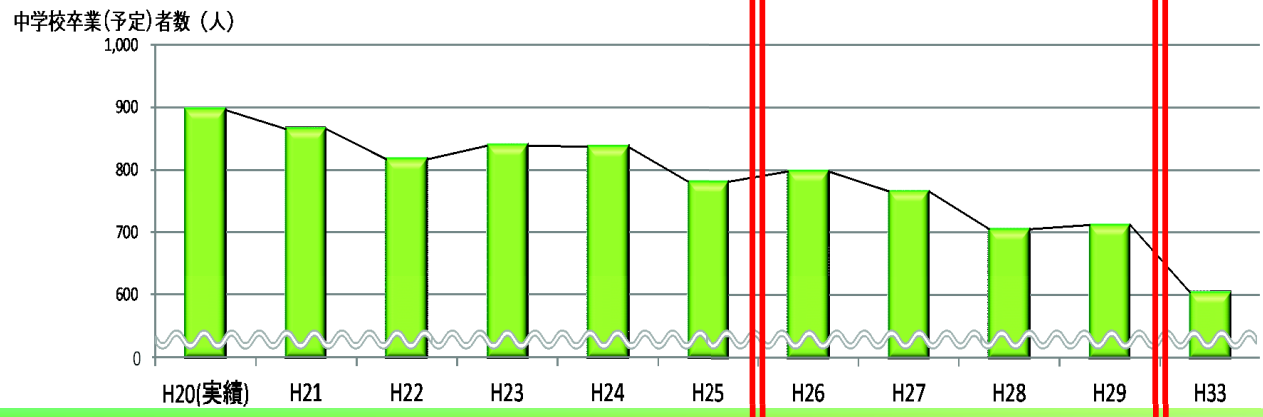
  ⇒　定員の引き下げ　＝　教員配置数の減少

35

（５）中学校卒業予定者数及び募集学級数の推移（計画案P16）

※中卒予定者数は各年３月の人数、募集学級数は各年度の学級数を示す

	第２次実施計画 (H17～H20)	第３次実施計画 【前期】(H21～H25)					【後期】(H26～H29)				生徒急減期 (H30～H33)
	H20(実績)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H33
中卒予定者数(人)	896	865	817	839	837	781	798	766	705	712	604
(前年比較)	—	△ 31	△ 48	22	△ 2	△ 56	17	△ 32	△ 61	7	—
(期間内増減)	△ 105	△ 115					△ 69				△ 108
募集学級数(学級)	20	20	19	20	19	18	—			17	
(期間内増減)	△ 6	△ 2					△ 1				



36

（６）下北地区における学校規模・配置の考え方（計画案P16）

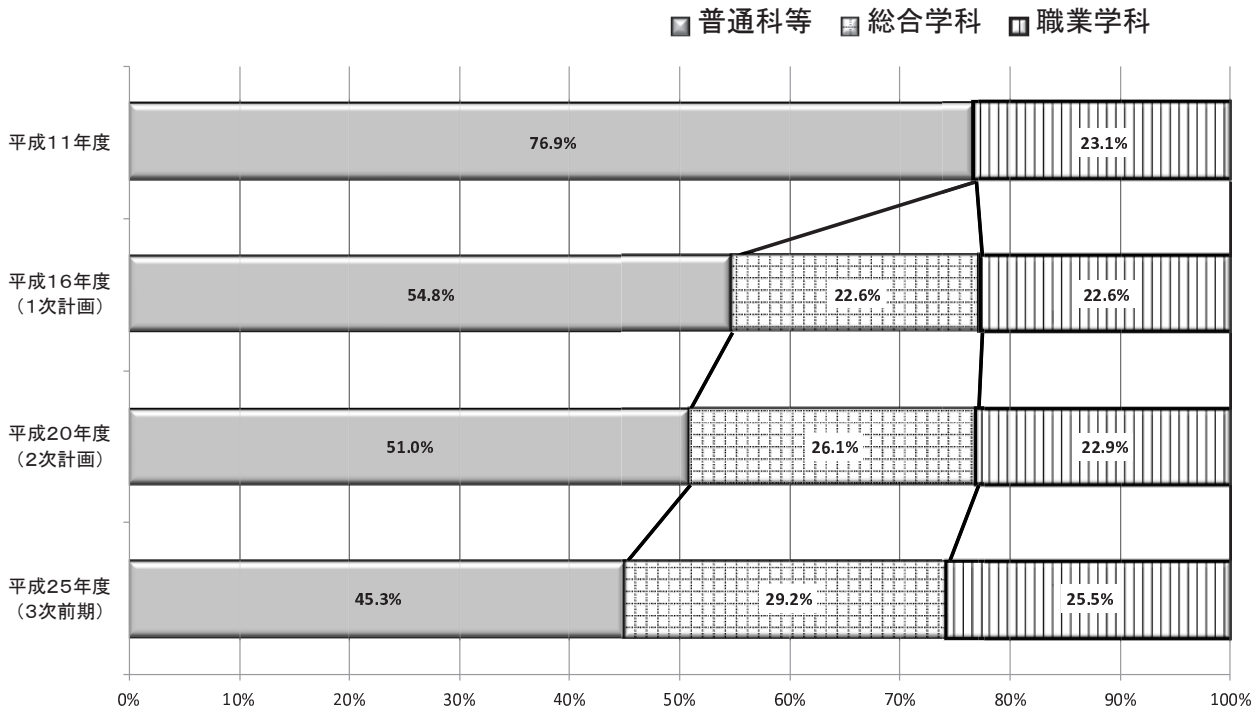
- 中学校卒業予定者数は平成２９年度までに６９人減少

⇒募集学級数　１学級減

➢ 中学校卒業予定者数の減少に応じた計画的な学級減

37

（７）下北地区の普通科等・職業学科・総合学科の割合の推移



38

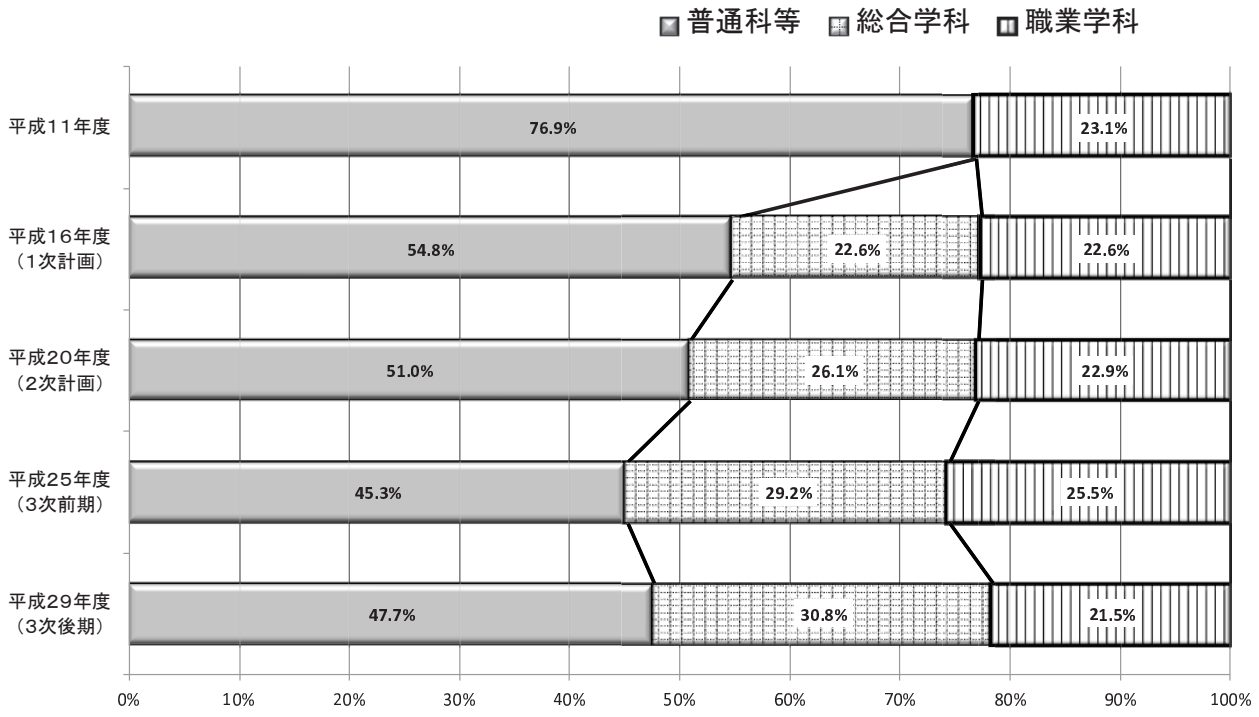
（８）下北地区の各高等学校の学校規模（計画案P16）

（単位:学級）

学校・学科 ＼ 年度・学級数等		第２次実施計画	第３次実施計画 【前期】		第３次実施計画 【後期】		備考
		H20	H25	期間内増減	H29	期間内増減	
田名部	普通	5	4	△1	4		
	英語	1	1		1		
大畑校舎	普通	1	0	△1	—		
大湊	総合	5	5		5		
川内校舎	普通	1	1		1		
大間	普通	2	2		2		
むつ工業	工業	5	5		4	△1	１学級減
計		２０	１８	△２	１７	△１	

39

（９）【後期】における普通科等・職業学科・総合学科の割合

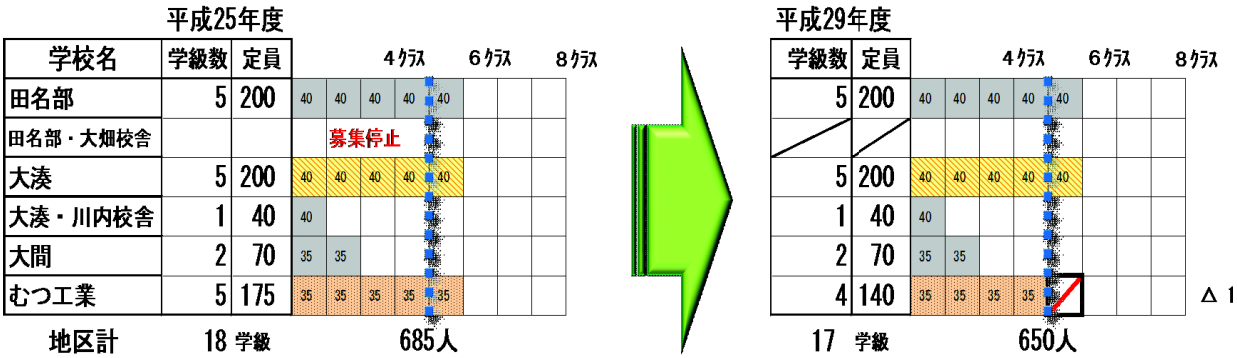


40

（10） 下北地区における平成２９年度の学校配置の状況

普通科等　職業学科　総合学科

学校名	平成25年度 学級数	定員	平成29年度 学級数	定員	
田名部	5	200	5	200	
田名部・大畑校舎					
大湊	5	200	5	200	
大湊・川内校舎	1	40	1	40	
大間	2	70	2	70	
むつ工業	5	175	4	140	△１
地区計	18 学級	685人	17 学級	650人	

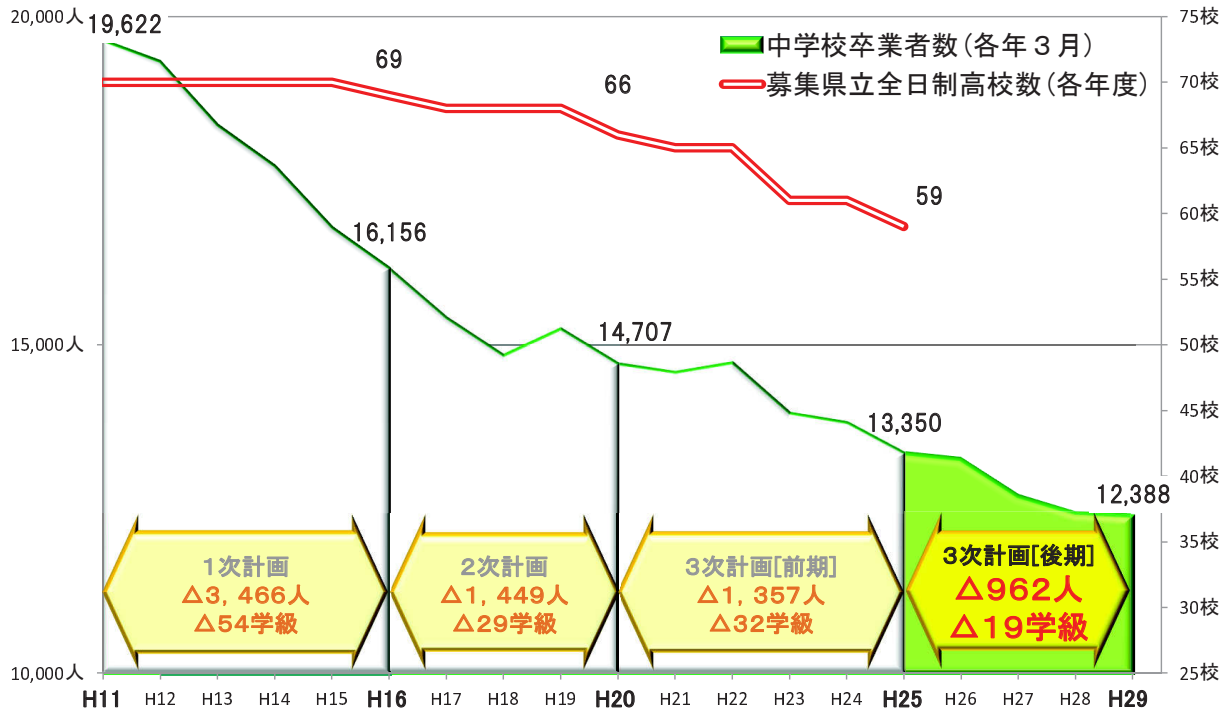


募集学級数増減　▲ 1 学級（対25年）

募集定員増減　▲ 35 人（対25年）

３　【後期】における県全体の学校配置・学科等

（１）県全体の中学校卒業予定者数の推移（計画案P11）



（２）募集停止及び校舎制への移行（計画案P19）

○募集停止の実施年度（全日制課程）

学校名＼年度		H26	H27	H28	H29	備　考
中南地区	岩木高校		募集停止	28年度末閉校		統合先の学校は、弘前中央高校
	弘前実業高校藤崎校舎		募集停止	28年度末閉校		
三八地区	八戸北高校南郷校舎		募集停止	28年度末閉校		

○校舎制移行の実施年度（全日制課程）

学校名＼年度		H26	H27	H28	H29	備　考
西北地区	中里高校	１学級募集		金木高校中里校舎		
三八地区	田子高校		１学級募集		三戸高校田子校舎	

43

（３）学科等（計画案P24）

- **普通科系の専門学科**
  - 理数科　…　高校入学後に柔軟な学科選択が可能となるよう、くくり募集を導入する。

※くくり募集…複数の学科をまとめて募集し、入学後のガイダンス等を経て希望学科を選択する募集方法

- **職業学科**
  - 生徒数の減少や社会の変化、多様な進路志望等に対応した改編を行う。
  - 弘前実業高校藤崎校舎のりんご科については、同校の募集停止に伴い、教育内容を柏木農業高校において引き継ぐ。
- **総合学科**
  - 生徒数の減少や進路志望に対応し、引き続き、系列の見直しを進める。

※系列…生徒の科目選択の参考となるように関連科目をまとめたもの

- **定時制課程・通信制課程**
  - これまでの取組を検証するとともに、生徒の多様な学習ニーズに応えるため、引き続き指導体制の充実を図る。

４　【後期】の見直し等

（１）第３次実施計画【後期】の見直し（計画案P29）

- 期間中でも、生徒の志願・入学状況や高等学校教育を取り巻く環境の変化によっては、地区ごとの学校規模・配置等について計画内容の見直しを行う。

（２）第３次実施計画【後期】後の方向性（計画案P29）

- 生徒急減期に対応するためには、未来を見据えた本県高等学校教育の姿を改めて検討する必要があることから、有識者などを委員とする検討組織を設置するなど、県民の皆様方から御意見を伺いながら、第３次実施計画までの教育改革の検証を行い、引き続き検討を進める。

45

５　成案に向けたスケジュール

- 平成23年8月　第１回地区説明会（中学校卒業予定者数の推移等）
- 平成24年1月～2月　第２回地区説明会（学校規模・配置の方向性等）

- **平成24年７月12日　第３次実施計画【後期】（案）公表**
- 平成24年７月１３日
- 平成24年８月31日

（各地区の県立高等学校学校規模や募集停止する学校を公表）

パブリックコメント実施（郵便等、FAX、電子メール）

地区説明会等開催

- **平成24年11月　第３次実施計画【後期】の策定・公表（予定）**

46